様式1

平成25年度　学校評価表

a ミッション	志を持ち未来を拓く子どもの育成	aビジョン　○基礎・基本を大切にし，確かな学力を育む学校　○学ぶ力と遊ぶ力，これらの基本となる力を育む学校　○尾道の魅力と郷土愛を高める学校　○地域と保護者が育て支える学校	尾道市立土堂小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の向上	授業力を向上させるとともに基礎学力の定着を図る。	基礎・基本の定着と学力の向上	モジュール授業の工夫 個別学習の工夫 家庭学習の充実 ティームティーチングによる指導の充実	全国学力・学習状況調査と基礎・基本定着状況調査の通過率（９月）	国および県平均通過率より＋８ポイント以上	＋15.4		193	A	・「全国学力・学習状況調査」の通過率（ ）は国との比較 国語A 81.6(＋18.9)　国語B 69.4(＋20.0) 算数A 89.1(＋11.9)　算数B 80.8(＋22.4) ・「基礎・基本」定着状況調査の通過率（ ）は県との比較 国語 82.6(＋12.5)　算数 85.3(＋15.5)　理科 67.6(＋6.3) ・昨年度の結果を受け，「学力向上対策プロジェクト」を立ち上げ，国語・算数・理科プリント集を作成し，児童全員に基礎・基本が身に付くように指導するとともに，活用問題等も指導した。（放課後・授業・家庭学習）					
				標準学力調査の通過率（２月）	全国平均通過率以上の学級８０％					（２月に実施）					
				漢字検定試験・数学検定試験の合格率（１・２月）	95%					（１・２月に実施）					
		◎コミュニケーション能力を活用した児童の育成	土堂小シンキングマップを活用した授業改善	事実を基に理由付けができる児童の割合【ノートの記述から】	80%	77		96	B	・土堂小シンキングマップを使って，考えをつくる場面・かかわ り合う場面・振り返る場面を設定することで，自分なりに理由付けして考えをもつ児童が増えた。 ・学級間に差があり，理由付けをする場面を意図的に仕組む必要がある。 ・理由付けができない児童に個別対応することが必要である。					
豊かな心の育成	基本的生活習慣の確立と豊かな心を育む。	◎マナーの定着と奉仕の精神の涵養	気持ちのよい挨拶（目を見て，相手に届く声）の励行	習慣化できた児童の割合（児童アンケート５段階）	85%	77		91	B	・今年度から気持ちのよいあいさつを目を見て，相手に届く声であいさつすることとし，全職員で意識をして指導を行った。 ・気持ちのよいあいさつをする児童が増えた。 ・児童や先生に向けてあいさつをすることができるようになっているが，それ以外の人へのあいさつが不十分であるため，あいさつを広げていきたい。					
			主体的な清掃活動の実施（清掃開始時刻・終了５分前行動の徹底）	習慣化できた児童の割合（児童アンケート５段階）	85%	74		87	B	・今年度から主体的な清掃活動を時間を守って，ゴミゼロとし，全教職員で意識をして指導を行った。 ・無言で掃除をする児童が増え，掃除の片付けがきれいにできるようになった。 ・２学期もこれまでの取組を継続して，徹底してきたい。					
		道徳の時間の充実	心に響く道徳授業の創造	児童の心情変化（児童アンケート５段階）	85%	93		109	A	・肯定的評価の児童の割合は９０％を超え，否定的評価の児童の割合は０．４％を下回る。 ・２学期の道徳参観日に向け，教育活動と関連した道徳授業の創造を進めている。 ・今後も教育活動と関連した道徳授業の創造を推進していくよう，全教職員の意識を統一していきたい。					
		読書活動の充実	教科等の学習と関連付けた図書を用意し，読書の質を高める工夫を行う。	１年生月６冊，２年生月１２冊，中学年月500ページ，高学年月１０００ページ以上の読書をした児童の割合	85%	70		82	B	・昨年度は，読書貯金の記録が習慣化していないこと，読書の質にかたよりがあることが課題であった。 ・担任が週末，週明けに読書の声かけをすることで読書貯金の記録をする児童が増えた。 ・ブックトラックの本を定期的に交換することや学習内容と関連させた本を選書させることで，質のよい読書活動を推進することができた。 ・目標値を目指して，２学期も取組を継続していきたい。					
健やかな体の育成	健康の増進と体力の向上を図る。	児童の体力・運動能力の向上	体育科授業の充実	新体力テストの昨年度の本校平均を上回った種目と下回った種目の差	15以上	12		80	B	・各学年男女９種目実施(96項目)。昨年度の本校平均を上回った項目が54，下回った項目が42で差は12となる。 ・種目としては，立ち幅跳びが9項目(12項目のうち)下がっており課題である。２学期体育科「走り幅跳び」の指導の工夫を図る。また，土堂小トレーニングに縄跳びを取り入れる。					
				新体力テストの県平均を上回った種目の割合	60%					（県平均は12月に公表）					
		基本的生活習慣の確立	「早寝早起き朝ごはん」の徹底	習慣化できた児童の割合（児童の自己評価）	85%	80		94	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」実態調査を１学期の始めに実施することで，児童や保護者の基本的生活習慣に対する意識を高めることができた。今後は習慣化できていない児童への個別指導を行う。					
保護者・地域との連携	コミュニティスクールの実践を進化させる。	学校情報の積極的な発信	ホームページによる学校の取組の発信	年間のＨＰの更新回数	250回	120		144	A	4月28回，5月31回，6月30回，7月31回（4ケ月で120回更新のため，達成率は144%）					
		地域の教育力を生かした教育活動の推進	地域人材・素材の計画的な教育課程への位置づけ	年間計画の実施率	100%	100		100	A	総合的な学習の時間の計画に沿って，計画通り実施している。					
		ミッションステートメントの実現	教職員間でのミッションステートメントの共通理解	保護者評価５段階３以上の割合（保護者アンケート）	90%					（２学期に実施）					

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。